



きんてつやまとやぎえき

## ①近鉄大和八木駅

1923年大阪電気軌道敵倍線(現在の橿原線)の平端 - 橿原神宮前開通時に、八木駅(やぎえき)として開業。この時のホームは現在の八木西口駅の位置。1925年大阪電気軌道八木線(現在の大阪線)が高田駅(現在の大和高田駅)から延伸し八木駅に乗り入れ。1928年大軌八木駅(だいきやぎえき)に改称。1944年(昭和19年)6月1日会社合併により近畿日本鉄道の駅となる



やぎふだのつじこうりゅうかん

## ②八木札ノ辻交流館

「札ノ辻」は、街道や宿場町など往來の多い場所に高札を立てた道辻を指す。八木札ノ辻は、古代大和の主要道路「下ッ道」と「横大路」との交差点を指しており、江戸時代中期以降、八木札ノ辻界隈は、伊勢参りや大峰山への参拝巡礼などで賑わっていた。東側に「平田屋(旧旅館)」は、八木札ノ辻交流館になっている。横大路は、梶井市三輪山の南から葛城市の二上山付近まで奈良盆地を東西にほぼ真っすぐ北へ進み、難波と飛鳥宮を結ぶ官道の一つとして整備された。



こくふんじ

## ③国分寺

この「大和国分寺」は天平時代に建てられたと言われている。阿彌陀如来坐像を本尊としており、その両側には観音・勢至両菩薩坐像が本尊をお守りするように祀られている。一般公開はされていないが十一面観音立像もあり、国の重要文化財に指定。櫓の一木造りで、荘厳で力強さを感じられ、両膝には翻波式衣文が見られることから平安時代中期の作品とされている。本堂は焼失し現存していないが、明治時代には「培擁社」として利用されていた。

# 橿原北エリア スポットガイド

徒歩 約2時間 8600歩 5kmのコース

- ①近鉄大和八木駅⇒ (6分)⇒ ②八木札ノ辻交流館⇒ (6分)⇒
- ③国分寺⇒ (20分)⇒ ④八鹿神社 ⑤正蓮寺大日堂⇒
- (15分)⇒ ⑥多賀氏陣屋跡⇒ (10分)⇒ ⑦天高市神社⇒
- (10分)⇒ ⑧曾我川たもとの道標⇒ (25分)⇒
- ⑨金橋神社⇒ (15分)⇒ ⑩JR金橋駅

いるかじんじゃ

## ④八鹿神社



今は廃寺となっている普賢寺の鎮守社であったと伝えられる。祭神は蘇我八鹿と素戔嗚尊全国で唯一「曾我八鹿公」を祀る神社。日本書紀では蘇我氏は大逆臣。だが小網町の人々は「八鹿公」と敬愛する。明治時代、橿原神宮の造営にあたり「神武天皇を祀る橿原神宮の近くに逆臣である蘇我八鹿を神として祀るのは都合が悪い」と祭神を素戔嗚尊にし社名も改めるように言われたのを地元住民は拒んだという。

しょうれんじだいにちどう

## ⑤正蓮寺大日堂



創建年代などは不明だが、本尊の阿彌陀如来は江戸時代の仏師・康雲によるもの。明治に廃寺となった普賢寺の旧本堂。現在の建物は文明10年(1478年)の再建で、貴重な室町期の小規模仏堂として国重文に指定されている。明治に一時売却されたが、地元住民が落札し守ったというエピソードも

たがしんやあと

## ⑥多賀氏陣屋跡



(曾我町)今は曾我地区公民館と陣屋会館が建つ。江戸時代の初め、旗本多賀氏が、2000石を拝領して、陣屋を構えていたところ。陣屋の周りは藪と掘を巡らしてあったらしい。今から50年ぐらい前までは、この辺りは「陣屋の藪」とよばれる藪が残っていたらしい。今は説明板があるだけで陣屋の面影はない



あめのたけちじんじゃ

## ⑦天高市神社

(曾我町)祭神は事代主・品陀別命(応神天皇)・息長帯姫(神功皇后)・比売神の4柱。遅くとも貞観元年(859)以前に存在した神社。式内大社に比定される格式高い神社。日本書紀によると「天照大神がお隠れになった時、全国の神々がこの地にお集まり相談された」という伝承地の一つ。



そががわ

## ⑧曾我川たもとの道標

場所によっては道幅が拡張され、街道の面影はすでに消えてしまっているが、ところどころに見られる「太神宮」と書かれた大きな燈籠が、かつての街道であったことを示している。また道沿いには民家の入口に道標が残されていたり、半ば埋もれた道路元標が交差点の角にあたりと、気をつけて見なければ見過ごしてしまうほど、微かな面影が残っている。曾我川にかかる橋のたもとのには、大きな道標が壊れながらも残され、竜田から来る道とここで交差していることを教えてくれている。



かなはしじんじゃ

## ⑨金橋神社

第27代守開天皇を御祭神とするこの神社の境内には守開天皇勾金橋宮跡の記念碑があります。「御子、広国押武金日命、勾(まがり)金箸宮(かなはしみや)に坐まして天の下治らしめき。」と書物に記されているようこの地で即位されました



かなはしえき

## ⑩JR金橋駅

曲川町にある、西日本旅客鉄道(JR西日本)梶井線(万葉まほろば線)の駅である。駅名は旧金橋村から命名されている。なお金橋村は守開天皇の都「勾金橋宮」に由来する。